特集　健康経営と金融市場

株式市場からみた健康経営
―ヘルスケアセクターはライフケアセクターへ―

繁　村　京一郎 CMA

目　　次

1．はじめに
2．健康経営を促すソリューション
3．アナリストカバー対象はヘルスケアからライフケアへ拡張
4．健康経営と株式市場
5．おわりに

「健康経営」は企業経営の戦略上の重要課題となりつつあるだけではなく、ヘルスケアセクターにとって、事業の枠組みを変えるような構造変化をもたらす可能性を秘める。健康経営の取り組みは直接的に株価評価に影響するとまではいえないものの、健康経営の考え方が浸透することで、日本のヘルスケア産業が病気や介護を中心としたものから、未病や予防まで含めたライフケア産業へ進化するきっかけを与えている。本稿では、セルサイドアナリストの視点から、健康経営を株式市場の視点からとらえるのに際し、①国策、人口動態から企業による健康経営がもたらす役割を見いだし、②ヘルスケアからライフケアへの産業構造の変化およびアナリストの対応領域拡張の可能性を展望し、③健康経営に関するソリューションやサービスを提供する企業の取り組みについて考察する。健康経営ソリューションを提供する企業を中心に、「ヘルスケアセクター」が「ライフケアセクター」へ拡張していくだろう。

1．はじめに

⑴　国家財政の視点からみた健康経営の重要性

2021年の国民医療費は44兆円、介護費用は11兆円。今後も超高齢化、医療技術高度化により2040年には国民医療費約67～69兆円、介護費用約26兆円へ拡大するという推計もある。一見成長市場にみえるが、国の政策は医療介護費の伸びを抑制する方針が基本であるため、実際には需要の増加に対して十分な政策支援（診療報酬の引き上げ等）は望みにくい。国策としては、医療費適正化政策、地域医療構想などが推進されており、医療機関再編成、入院から在宅へ、重症化予防の推進、DXによる業務効率化、などが掲げられて

繁村　京一郎（しげむら　きょういちろう）
野村證券 エクイティ・リサーチ部 医薬ヘルスケアチーム・ヘッド／中小型株チーム　コ・ヘッド。1991年早稲田大学教育学部卒業（臨床心理学）。1991年野村證券入社。横浜駅西口支店、青森支店を経て、1995年より引受審査部にてIPO、ファイナンス業務を支援。2000年より企業調査部（当時）にてアナリストとしてヘルスケアセクター、中小型株、IPOなどを担当。2011年中小型株チーム・ヘッド、2015年より医薬ヘルスケアチーム・ヘッド。

©日本証券アナリスト協会　2023